

# TOEIC®・TOEFL®対策指導の可能性を探る (第2回 スコアの要件化と事例報告)

横川 綾子<sup>A</sup>

## Exploring pedagogical possibilities for TOEIC® and TOEFL®

(The Second Issue: Test score requirements and a case report)

Ayako YOKOGAWA<sup>A</sup>

### 1 高等教育機関における TOEIC®の利用実態

第1回特集では、序論として TOEIC®・TOEFL®の形式の違いとその波及効果を論じた。今回は、TOEIC スコアを大学等における進級・卒業要件あるいは出願要件として課す「スコアの要件化」に伴う諸問題について、東京海洋大学海洋科学部（以下、本学部）の事例を踏まえて考察する。

近年、TOEIC 等の外部英語試験を諸要件に活用する高等教育機関が増えている。例えば、TOEIC 運営団体が大学等を対象に行った 2014 年の調査（回答数 1154 校）によると、入学試験に 480 校(41.6%)、単位認定に 479 校(41.5%)が TOEIC を利用している(表 1)。

表 1 TOEIC®テストの利用実態

利用方法	大学 (754)	短大 (343)	高専 (57)
入学試験	347	97	36
単位認定	360	74	45

(国際ビジネスコミュニケーション協会資料より作表)

また、大学院入試で TOEIC スコア所持者への優遇措置を設けているのは約 9 割（回答数 38 校中 34 校）に達している。優遇措置には、TOEIC で一定スコアを取得すると英語試験が免除される、TOEIC スコアが英語試験の得点として換算される<sup>1)</sup>といった方式がある。専門科目の試験準備に集中したい受験者にとって、時期を選んで複数回受験できる TOEIC で英語試験を代替出来るメリット<sup>2)</sup>は大きい。

### 2 TOEIC スコア要件化に伴う諸問題

スコア取得者に選択の余地がある単位認定や優遇措置としての活用とは異なり、進級・卒業要件や出願要件として一定の TOEIC スコアを導入する場合には、種々の問題や困難が想定される。スコア取得を義務づける側と義務づけられる側に分けて整理したい。

まず、スコアの要件化に乗り出す教育機関にとって最初の困難は、学内の意思統一だろう。TOEIC の妥当性に対する評価は様々で、TOEIC では英語能力を測れないとする声もあるに違いない。学内調整が難航し、最終的には学長や学部長のトップダウンで要件化に踏み切る例もあるようだ。また、スコアの要件化によって入学希望者に敬遠される、留年者が増える、といったリスクを勘案する必要もある。一定スコアの取得を義務化する場合には、学生に相応の教育支援を行う責任が教育機関側にあることは言うまでもない。

一方、スコアを要件化された学生や入学希望者は、要求されるスコアが出るまで何回も受験することになるため、経済的負担<sup>3)</sup>が大きくなる。それが受験機会の多寡や取得スコアに影響する可能性についても、要件を課す側は斟酌する必要がある。

### 3 東京海洋大学海洋科学部の事例

本学部の TOEIC 600 点 4 年次進級要件化は、現 2 年生が 4 年次に進級する 2017 年 4 月 1 日までその成否は未知数である。しかしながら、現時点で見えてきた TOEIC スコア要件化を円滑に進めるためのポイントを、現場で奮闘する TOEIC 統括教員の目から整理してみたい。

A: 東京海洋大学グローバル人材育成推進室

### 3.1 海洋科学部 TOEIC 学習ロードマップ

本学部では、TOEIC 600 点 4 年次進級要件導入の際に TOEIC 学習ロードマップ（行程表）を作成し、これに基づいた教育支援を計画・実施している。なお、ロードマップには必要に応じた改訂を年度初めに加え、随時閲覧できるよう最新版をホームページに掲載している。

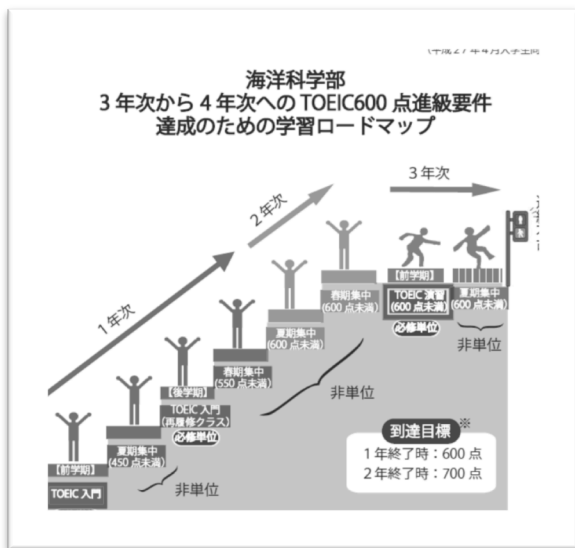


図1 TOEIC 学習ロードマップ

### 3.2 進級要件達成状況

2015年7月現在、現2年生（進級要件化1年目）の49.2%、現1年生（進級要件化2年目）の39.2%が、既に進級要件を達成している。学年別平均スコアは、入学後16か月未満で107ポイントの上昇、入学後4か月未満で78ポイントの上昇が見られた。

表2 進級要件達成率と平均スコア

学年	進級要件達成率	平均スコア
海洋科学部2年生 (n=284)	49.2% (実数140名)	589(+107) (入学時482)
海洋科学部1年生 (n=288)	39.2% (実数113名)	564(+78) (入学時486)

(2015年7月現在。平均スコアの数値は小数点以下四捨五入)

### 3.3 進級要件達成に向けての教育支援体制

#### 3.3.1 2年生に対する教育支援策

2年生に関しては2年次に TOEIC 関連の必修科目が開講されないため（非単位の補講クラスは通年開講

中）、TOEIC 学習から離れている学生が多いことが最大の懸念である。進級要件化に伴う制度構築の際、2年次に必修科目が設定されなかったことが実に悔やまれる。600 点未満の2年生には夏期集中講座の開講や後期補講クラスの増設等の対策を打っていくが、学生のクラス受講率を高め、維持する工夫が必要である。

また、600 点未満の2年生に関しては「学生カルテ」を作成し、3種類に分けて（595~500点、495~400点、395点以下）管理している。カルテには受験歴・スコア推移・クラスの受講状況などを記録し、進級要件を達成次第、当該学生のカルテを破棄している。カルテが徐々に減っていく様は、成果の視覚化とも言える。

なお、2年生に対する指導に際しては、過去最高点が500点台の学生を「潜在能力が高い層」、500点未満の学生を「基礎力養成が必要な層」と見做し、両者に対するアプローチを変えている。例えば、後者に対しては夏休み前に一斉呼び出しをかけ、TOEIC 統括教員との個別カウンセリングを行う。この層には今後とも手厚い教育支援を施していく。

#### 3.3.2 1年生に対する教育支援策

入学から4か月しか経っていない1年生は、現在伸び盛りである。本稿執筆時点で前期必修科目「TOEIC 入門」が開講中であり、約5週間の夏休みを挟んで9月初旬まで授業は続く。学内で実施される7月のIPテストを期末試験、9月のIPテストを追試験と位置づけることで早期に受験経験を積ませ、学生自身が学習の成果を確認することを意図した。1年生向け夏期集中講座は450点未満を対象を絞り、まずは最高点を500点台に乗せることを目標に置いている。

なお、1年次必修科目「TOEIC 入門」が通年ではなく、前期開講の科目になっている点は問題視している。本年度は暫定措置として、前期で終了する「TOEIC 入門」の履修要件を厳格化し、後期開講の再履修クラスでの継続学習の道を残した。平成29年度に予定されている大規模なカリキュラム改訂の際には、制度上の教育支援を拡充したいと考えている。

#### 3.3.3 迅速な意思決定と現場の意思統一

要件化に踏み切ったものの、現場レベルの意思決定に時間がかかっていたのは教育支援が後手に回る。東京海洋大学グローバル人材育成推進室では、室長を大学理事が、副室長を学部長がそれぞれ兼務し、毎週の定例会議で状況を把握したうえで、担当者に対して必要

な指示をその場で出す。意思決定が早いと、様々な状況に柔軟に対応でき、週ごとの話し合いで現場の意思統一が図られる。なお、定例会議には教務課やグローバル人材育成推進室のスタッフを含む 10 名余りが参加する。

### 3.3.4. 進捗状況の把握と最新情報の共有

要件の達成状況は常に分析・把握され、最新情報が関係者に共有されていることが望ましい。本学部では、テスト実施後約 7 日で送付される IP テストのデータを一元管理し、定例会議の参加者および TOEIC 科目担当講師の間で情報を共有している。データに大きな動きがあった場合は「海洋科学部 Newsletter」を作成し、学内掲示やホームページへの掲載を通じて学生に情報を周知している。また、TOEIC 関連の連絡事項等に関しては、TOEIC 統括教員が「海洋科学部 TOEIC ニュース」を発行し、学生に一斉メール配信している。

### 3.3.5. 統一シラバスと TOEIC の専門家による指導

英語学や英語教育の専門家が必ずしも TOEIC スコアアップのプロとは限らない。一定のスコアを取得するのに必要なスキルを短期間で身に付けさせるには、TOEIC に精通した力量のある指導者による授業が欠かせない。本学部では、統一シラバス (TOEIC 統括教員が作成) を踏まえたうえで担当講師の強みと個性を活かす授業によって、高い教育効果を出している。

### 3.3.6. アドミッションポリシーとの連動

一定の TOEIC スコアを進級・卒業要件として課す場合、その要件に対応できる基礎力や潜在能力を持つ学生を入学段階で選別する必要も出てくる。本学部では、平成 28 年度入試からすべての入試区分に TOEIC 400 点や英検準 2 級等、外部英語資格試験のスコア提出を出願要件に加えた。アドミッションポリシーとして入学希望者に一定水準以上の英語基礎力を求めることは、進級要件との整合性を確保し、効果的な教育支援を行う環境が整う布石となる。

## 4 TOEIC スコア要件化の円滑な実施のために

最後に、TOEIC 統括教員の視点から、TOEIC 等の外部英語試験のスコア要件化を円滑に進めるための実施上の要点をまとめる。

- ・教育支援における PDCA (計画・実行・評価・改善) サイクルの徹底

- ・学生に対する継続的な情報発信
- ・意思決定を迅速に行うための組織作りと大学当局の積極的関与
- ・事務関連を含む関係者間の情報共有と意思統一
- ・アドミッションポリシーとの連動

本連載では、TOEIC と TOEFL の違い、波及効果、要件化について述べた。紙幅の都合により、本学部の TOEIC 教育プログラムの全容や具体的な指導法および教材については触れることができなかった。それらについては、グローバル人材育成教育学会第 2 回全国大会予稿集等を参考にされたい。

## 注

- [1] TOEIC 700 点で英語試験 80 点 (100 点中) に換算。
- [2] ただし TOEIC では専門的な英語文献を読むスキルを直接測定できないことは、受験者を選抜する側には不利に働くかもしれない。
- [3] TOEIC の受験料は 2015 年 6 月現在で税込 5,725 円、学内 IP テストは 3,000~4,000 円。
- [4] 今年度から 1 年次後期の「TOEIC 補講」を「TOEIC 入門 (再履修クラス)」に変更したため、平成 27 年 4 月 1 日に改訂が加えられた。
- [5] 東京海洋大学海洋科学部の取組については、グローバル人材育成教育学会第 2 回全国大会予稿集収録の横川綾子・トンプソン美恵子 (2014) 「東京海洋大学海洋科学部の TOEIC 教育プログラム」に詳しい。大学における TOEIC 指導用教材としては、横川綾子・トニーック (2014) 『Level-up Trainer for the TOEIC® TEST』(センゲージラーニング) および横川綾子・渋谷奈津子 (2012) 『TOEIC® テストいきなり 600 点!』(アルク) なども参照されたい。

## 引用・参考文献

- 1) (一財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 : <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/data/search.html>  
[http://www.toeic.or.jp/toeic/about/data/search\\_daigakuin.html](http://www.toeic.or.jp/toeic/about/data/search_daigakuin.html)  
(2015 年 7 月 15 日参照)
- 2) グローバル化に向けた東京海洋大学海洋科学部の入試改革について : <http://www.kaiyodai.ac.jp/admission-cms/gakubu/88/file/03kaikaku.pdf>  
(2015 年 7 月 15 日参照)
- 3) 国立大学法人東京海洋大学グローバル人材育成推進室ホームページ : [http://www.kaiyodaiglobal.com/toeic/education/toeic\\_19.html](http://www.kaiyodaiglobal.com/toeic/education/toeic_19.html)  
(2015 年 7 月 15 日参照)